

千年の森便り No.144

2015.7.24

ちば千年の森をつくる会

<http://toyofusajima.digi2.jp/>

事務局長 伊藤道男

sennennomori@hotmail.co.jp

活動の記録

6月23日(土) 晴 臨時活動日

参加は、新井通子、伊藤、根本の3人でした。

伐採地区の植生調査は、残り4区画が完了し、春夏シーズンの調査は一応終了したとのことです。(今後、補完調査は必要と思いますが)。新井さんと相談のうえ、調査結果のまとめ、今後の方向などを含めて、次号以降の会報誌に情報提供します。

キノコは、大きなアカヤマドリを根本さんが発見し、新井さんも何種類か見つけていました。7月20日も期待できそうな気がしてきました。

ベンチのブルーシートの屋根が大雨で破損していたので、根本さんが応急的に補修しました。(伊藤)



アカヤマドリ 6/23 伊藤

7月15日(水) 曇 臨時活動日

参加は伊藤、大原、苅米、根本、山口の5人で、テーブル屋根の設置、仮設物置の補強、危険木の確認を行いました。テーブル屋根は2代目で、柱には孟宗竹を使い、構造もいろいろ工夫してこれまでより一回り大きく快適な空間となりました。キノコ観察会をはじめとして、雨天にも熱中症対策の日よけにも活躍が期待されます。また、仮設物置の骨組みも台風に備えて補強をしました。皆さん、猛暑の中、お疲れさまでした。(伊藤)

(危険木処理) ホコラ山上り口の朽ちた桜の伐倒と、前回ホコラの後ろで、宙ぶらりんになっていた掛かり木を一本処理しました。(根本)



柱は頑丈な孟宗竹

7月20日(月) 海の日 快晴

夏のキノコ観察会 参加会員は、赤松、新井通子、石毛、伊藤、鶴沢、久我夫妻、河野、坂本、田島、成沢、根本、福島、藤川、降幡、松田、真鍋、村野、山口、吉澤 の20名。講師は県中央博の吹春先生、そして夏の観察会ご案内に応じてご参加下さった方々28名、総勢49名の大盛況でした。大ベテランから若いお母さんまで、沢山の千葉菌メンバーにご参加頂きました。遠路いわき市や柏市からのご参加、更にベトナムや中国からの参加もあり、賑やかな顔ぶれでした。



吹春講師を囲み総勢49名、森の木陰でキノコ観察を楽しみました

3年続きのキノコの少ないキノコ観察会に懲りずに千年の森をお訪ね下さった皆さんの熱意に森が応えたのか、梅雨で雨続きの天候のせい、久しぶりにキノコに恵まれました。今年は天候にも恵まれ、梅雨明け翌日の炎天下、森の木陰でキノコを観察し楽しみました。

吹春先生有難うございました。参加の皆さまお疲れ様でした。また当日朝も、事前にも出勤して安全・快適に観察会ができるよう、森や広場を整備下さった会員スタッフの皆さんに感謝します。(真鍋)

○キノコ観察吹春コース

それぞれグループに分かれて、森の各方面でキノコを探し、観察・採取しましたが、吹春先生のグループは千年広場南を経て、ほこら山南側斜面から禁断の岬南側斜面を中心にきのこを探しながらお話を聴きました。

ほこら山の急な斜面を下ると毒きのこのクロタマゴテングタケをはじめ、イグチ科などたくさんの種類のきのこを見つけることができました。ひとつ見つけるたびに吹春先生に丁寧に説明して頂き、参加者一同真剣に耳を傾けました。個人的にはタマゴダケを発見できず残念でしたが、見たことのなかったオニテングタケなど、形が変わったきのこをたくさん見ることができ充実した1日でした。(吉澤)

吹春観察コース同行記 まだ日本語が話せないベトナムからの女性のお客様が一緒でした。研究者同士はキノコの種名について、世界共通語の学名で簡単に話が通じる様子を目の当たりにして、学名の便利さ偉大さを再認識しました。その他の話は加藤さんが英語で説明して、国際色豊かな観察コースでした。(坂本)



日本でキノコ勉強中のタオさん

○吹春先生の講義要旨

ブルーシートに集められたキノコを分類・同定後、キノコを囲んで先生の興味深いお話を聴きました。今回採れたきのこは、イグチの仲間、ベニタケの仲間、テングタケの仲間など、森と共生しているきのこが多かった。

ベニタケの仲間は、銀行で言えば大手、メガバンクに当たるもの。これらは、外生菌根菌の半分くらいを占めている。ベニタケの仲間の特徴は、もろいこと。また、乳液が出るものと出ないものに分けられる。乳液が出ないものとして、クロハツ、クロハツモドキがあった。きのこを切ると、すぐに赤く変色し、やがてやや黒っぽい色に変化した。毒があるニセクロハツは、赤いままのこと。乳液が出るものとして、チチタケ、ツチカブリ、ケシロハツモドキがあった。ツチカブリやケシロハツモドキの乳液は辛い（下がピリピリする辛さで、わずかな量でも強烈！）。チチタケは栃木県の人に非常に人気がある。

テングタケの仲間は、傘に溝線があるものとないものに分けられる。溝線がないものに猛毒のきのこが多い。クロタマゴテングタケが採れた。シイカシ林に出るきのこで溝線がなく、猛毒。タマゴダケは食べられるきのこ。テングタケの仲間は胞子が白いが、タマゴダケの仲間は黄色。コテングタケモドキは、毒と言われているが不明。食べられるという人もいる。オオツルタケは、ヒダに縁どりがあるのが特徴。ドクツルタケ、シロタマゴテングタケは猛毒。柄の根元が膨れるカブラテングタケは、東南アジアで初めて記載されたきのこで、千年の森と東南アジアを結ぶ大変貴重なきのこ。大きくて立派なきのこだが、残念ながら食べられるという情報はない。

キシメジの仲間は、ミネシメジ（石鹼臭）、ヒロヒダタケ、いつも見られる名前がつかないきのこが採れた。フウセンタケの仲間は、胞子が鉄さび色をしている。外生菌根として重要だが、名前がつかないものが多い。今回採れたオニフウセンタケは、これも千年の森と東南アジアの森がつながっていることを示すきのこのひとつ。イグチの仲間では、管孔が垂生するという特徴があるニセアシベニイグチが採れた。アカヤマドリは非常においしいきのこ（レシピは当日の参加者にお聞きください）。ベニイグチ、セイタカイグチ、アシナガイグチは千年の森の特徴と言ってよいきのこ、すごくいい。ほかに、ニガイグチの仲間がいろいろ採れた。また、切るとすぐに青変するイロガワリの仲間も何種類か採れた。

植物と菌類が構成する菌根共生系とそこに寄生するランの話など、きのこ森の関係についての興味深いお話を聞かせていただきありがとうございました。(福島)



キノコ講義は次第に熱を帯び、皆熱心に聴き入りました



イロガワリsp7/20 福島

カブラテングタケ 7/20 福島

タマゴタケ 7/20 根本

ドクツルタケ 7/20 坂本

オオツルタケ 7/20 坂本

〇キノコ目録

この日採取・同定されたキノコは、種名不明種を含め 46 種です。他にフィールドで観察・撮影されたキノコもあり全て含めると 50 種を越えます。目録を 7 頁別紙に記載します。(降幡)

〇クロムヨウラン研究成果発表

3 月に退会されたミ・ルイン元会員は、豊英島に自生するクロムヨウランと菌類の共生関係を研究した 3 年間の研究成果を添付の「クロムヨウランの生活史」に簡潔にまとめ、キノコ観察会参加者に発表しました。



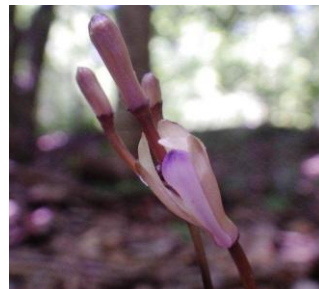
(研究成果は東京大学平成 26 年度修士学位論文「菌従属栄養性ランの保全に向けて：クロムヨウランの生理生態的特徴の解明」に収録され、会で一部お預かりしていますので、閲覧希望の方はお申し出下さい。)(真鍋)

〇植物観察

加藤恵美子さんは、キノコ観察中、ほこら山南斜面にナツエビネ?かもしれない株を見つけました。ナツエビネは 2002 年 7 月、森林研究所調査により自生が確認されて以来、毎夏探し続けながら未確認なので、あれば 13 年ぶりの大発見です。大発見に期待し、今後注意深く見守ります。

クロムヨウランは千年広場脇やクロムヨウラン調査地区、禁断の岬南斜面などに数株開花していました。

5 月に 8 株あったツチアケビは、全て黒変して枯れ、巨木林保護柵内に果実 1 個のみを残していました。早晚地上部は全滅するものと思われます。ツチアケビのモニタリング中間報告は千年の森便り容量超過のため今号掲載を見送り、次号に報告します。(真鍋)



クロムヨウラン 7/20 福島



実 1 個残るツチアケビ 7/20 真鍋

〇野鳥記録

千葉の夏は元々バードウォッチングに適しません。その上、40 名以上が島内に散らばってキノコを探しまわっていたので条件が悪く、確認できたのは僅か 9 種でした。

キジバト囀り カワウ 3 トビ 1+声 ハシブトガラス声 ヒヨドリ 1+声 ウグイス囀り
メジロ囀り カワラヒワ囀り ホオジロ囀り (坂本)



カワウ 7/20 坂本

○昆虫観察記録

ニイニゼミの声が森に響き、時折ヒグラシの声がする。夏本番を知らせてくれるセミの声が心地よい。翅を広げると紫色をしたきれいなムラサキシジミが今年も多い（去年も7月に多かった）。「小さなイトトンボ？」調べてみるとホソミイトトンボ（千葉県最重要保護生物 A）だった。成虫で越冬している姿（冬型）を昨年見たが、夏に見かけたのは初めて。冬型とは大きさも色も違い、まったく別のトンボに見えた。この時期に見かけるのは夏型といい成虫越冬はしないようだ。

ヒメウマノオバチ♀

数頭のハチがキノコのたくさん生えた幹を忙しそうに歩いていた。この木には穴がたくさんあるが、カミキリムシの幼虫に産卵するのだろうか？



カナブン・コガタズメバチ

樹液が出ている木は昆虫酒場。コガタズメバチはあまり他の虫を追っ払わない。時折やって来るオオスズメバチはカナブンを追っ払っていた。



キシタバ

前翅は目立たないが、後翅は黄色いと黒の鮮やかな色。危険が迫ると、パッと後翅を見せるのだろうか。



ニイジマトラカミキリ

1cm ほどの小さなトラカミキリ。パッと見たときはハチかなと思った。トラカミキリはハチに擬態をしているというが、ホントに騙される。



（他に観察された昆虫） | ヒメカゲロウの一種、シオカラトンボ、コシアキトンボ、ノシメトンボ、モリチャバナゴキブリ、オオカマキリ幼虫、クチキコオロギ幼虫、アオバハゴロモ幼虫成虫、[アオカナブン](#)、[ヨツボシケシキスイ](#)、[ムナビロオオキスイ](#)、[コクワガタ](#)、ヤマトタマムシ、ヒメクロオトシブミ、カタビロトゲハムシ、オサムシの一種、コメツキムシの一種、キマワリ、ヨツスジハナカミキリ、クロナガタマムシ、キボシアシナガバチ、トラマルハナバチ、アルマンアナバチ、ムネアカオオアリ、[ホシアシナガヤセバエ](#)、[シロフアブ](#)、ルリシジミ、キタキチョウ、モンキアゲハ、アサギマダラ、[ルリタテハ](#)、ヒメジャノメ、ツマキリウスキエダシャク、マエキカギバ（[青字](#)は樹液に来ていた昆虫）（田島）（河野さん発見も含みます）

○京葉銀行広報誌の取材

県内各地の「人と人、人と地域の絆」を特集掲載している京葉銀行広報誌『絆』の取材を受けた。巻頭を飾る見開き 2 ページの集合写真が売り物とのことで、50 名弱の参加者全員が息をあわせて笑顔をそろえた。

また、多くの会員が、活動に参加した動機やこだわりなどの取材を受けていた。また、こだわりのアングルでのカメラ撮影に協力していた。取材された方も、そうでない方も、出来上がりをお楽しみに。（伊藤）

孫の誕生日を豊英島で

孫の一歳の誕生日を祝うために、北京から来ました。ちょうど当日はキノコ観察会で、娘家族と一緒に豊英島に来て、美しい森の中で人と自然のハーモニーを感じました。孫も初めての森にすごい興奮していました。娘の研究発表を聞いて彼女の成長に感心したが、これは会員の皆さんの親切な指導があったからこそ成り遂げたこと。その後、吹春先生の説明で、キノコの色々な面を見る事が出来、とても充実な一日でした。（北京市 ヤン・エンカさん）



（注）ヤン・エンカさんは某大学 Dr.コース終了後、原子力研究所にご勤務、その間ミさんは東海村の小学校に通ったとのこと。

千年の森夏のキノコ観察会に参加して

2015.07.20 千年の森 「夏のきのこ観察会」当日、晴れ。16、17日と雨があった後で丁度3日経っており、きのこが出ている可能性が高いので期待が高まります。豊英島に着いて観察会が始まるまで、待っている間にも暑くて汗が噴き出してくるので、水分補給を忘れずに行わないと、途中でばててしまいそうでした。

観察会の開始後、吊り橋側から「禁断の岬」方面へのルートに決めて進むことにしました。途中、途中でイグチ系のきのこを何個か見つけましたが、これはイロガワリの仲間で傷がついたところが青変しました。他に、クロハツモドキ、アシナガイグチなどが見つかりました。残念なのは、比較的大きなイグチ系のキノコでしたが虫に食われ朽ちかけたのが2本ありましたが、傷みがひどく鑑定用に持ち帰れなかったことです。恐らく夏キノコの代表であり、美味しいと言われているアカヤマドリだったと思います。

暑い散策の後、千年広場に戻ってきて冷たい「クロモジ茶」を頂きましたが、さわやかな味・香りで生き返りました。今回、きのこの種類もますますで、吹春先生の解説も楽しく、また、食菌がある程度みつかったので、楽しかったです。非常に暑かったため「ホテイ岬」まで行けなかったため、次回、参加の時には行ってみたいと思います。(木更津市 小倉豊史氏)

自然の濃さを体験

厳密に保護された、自然の濃さを体験させて頂き、誠に有難う御座いました。人口減にも関わらず、近頃私の周囲でも、ドンドン林が伐採され宅地化されています。今年も、鶯の声も、多少暑さを感じるアブラ蟬の声も、殆ど聞けず寂しい想いばかりです。残念ながら、もう、戻らない自然です。

皆様の、自然保護への大変な努力！ 学びへの熱意・熱心さに！ 触れさせて頂き、感謝するばかりです。大変有難う御座いました。(山田 茂氏)

夏のキノコ観察会のお礼

夏本番を迎えた豊英島のキノコ観察会は参加者の熱意と活気に溢れ暑さも何処か吹っ飛んでしまいました。森の心地よい風に吹かれて観察開始！何と驚き！2時間程度で50種類ほどのキノコの発生が確認され森の恵みにも感謝しながら中央博の吹春講師による生の説明も聞くことが出来てとても有意義な観察会でした。

島ではお気に入りのヒメコマツ・クロモジ・エビネ・カンアオイ・クロムヨウランたちと嬉しい語らいもしました。ラッキーなことにクロムヨウランの生活史の解説まで聞けて感激いっぱい♪お昼時には美味しいお洒落なクロモジ茶のおもてなしに微笑み返しでした。

会員の皆さま方には受け入れ態勢面などお世話になりました。ありがとうございました。(四街道市 市原正則氏)

お知らせ

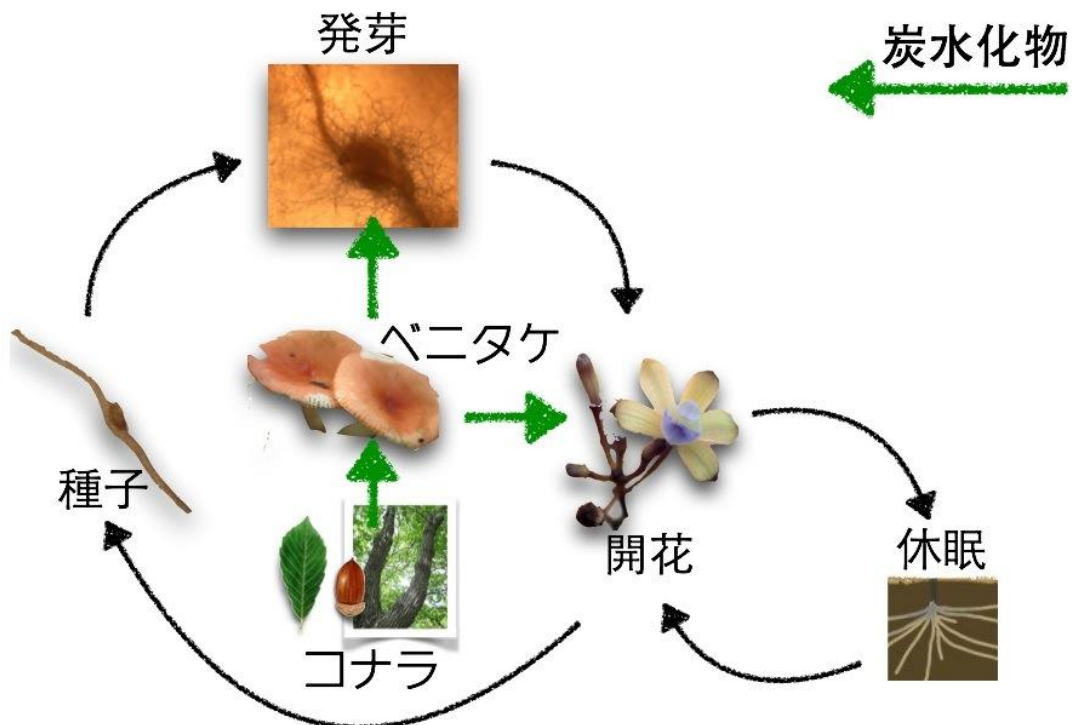
〇次回活動日 8月30日(日) 光環境調査(夏)、環境整備(観察路、ベンチ)植物調査、野鳥調査など計画されています。9時30分県民の森駐車上集合。

別紙) 平成 27 年 7 月 20 日 豊英島キノコ採取記録

科	属-種
ベニタケ科	ベニタケ属 クロハツ、クロハツモドキ、ウコンハツ、ベニタケ属多数 チチタケ属 チチタケ、ツチカブリ、ケシロハツモドキ
ヒラタケ科	ケガワタケ
キシメジ科	ミネシメジ、ヒロヒダタケ
テングタケ科	テングタケ属 ドクツルタケ、シロタマゴテングタケ、テングタケモドキ、オオツルタケ、ツルタケ、クロタマゴテングタケ、ヘビキノコモドキ、タマゴタケ、カブラテングタケ、オニテングタケ、シロオニタケ
ヒトヨタケ科	ミヤマザラエノヒトヨタケ
フウセンタケ科	フウセンタケ属 オニフウセンタケ、フウセンタケ属 2 種類
イグチ科	アカヤマドリ、ブドウニガイグチ、ニガイグチ属 1 種、コガネヤマドリ、キイロイグチ ウツロイグチ、イロガワリの仲間、ヤマドリタケモドキ、ニガイグチモドキ、 ニセアシベニイグチ
オニイグチ科	ベニイグチ、セイタカイグチ、アシナガベニイグチ
アンズタケ科	アンズタケ、アンズタケ属 1 種
腹菌類	キツネノロウソク
イボタケ科	ボタンイボタケ、イボタケ属 1 種
サルノコシカケ科	オオカボチャタケ、 ヒロイタケ
ヒダハタケ科	ニワタケ
ヒメツチグリ科	ヒメツチグリ属 1 種

クロムヨウランの生活史

共生菌に依存する無葉緑ラン



豊英島に自生するクロムヨウランと共生する菌

*Russula mairei/mariae/bella**
ニオイコベニタケ*



Russula compacta
アカカバイロタケ



Russula violeipes
ケシヨウハツ



Russula densifolia
クロハツモドキ



* 同物異名の可能性がある